

公益財団法人 世界人権問題研究センター



2025年度

人権大学講座

後援

京都府・京都市・京都商工会議所・京都府教育委員会・京都市教育委員会
京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局
産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都



公益財団法人世界人権問題研究センター シンボルマーク

全ての人間は、等しく人権を持つ…という気持ちを込めて、
人の姿をデザインし、地球に住むすべての人間が当センターの
対象であることを示しています。

講座日程

	開催日時	種別	講座名	講師	
1	6月24日 (火)	13:30～ 13:40	開講式		
		13:40～ 14:00	授賞式	第2回安藤仁介賞授賞式	
		14:00～ 16:30	シンポジウム	気候変動と人権	山形 俊男 浅岡 美恵 坂元 茂樹
2	7月10日 (木)	14:00～ 15:40	講義	学校組織・教育行政と子どもの人権	川上 泰彦
3	7月29日 (火)	14:00～ 15:40	講義	家族のかたちを考えるー性別変更と夫婦別姓をめぐるー	杉木 志帆
4	8月8日 (金)	14:00～ 15:40	講義	全国SOGI調査の結果から読みとる性的マイノリティの状況	釜野 さおり
5	8月20日 (水)	14:00～ 15:40	講義	近世京都における「白人」商売の展開 ー祇園「芸子」「舞子」の起源を求めてー	下坂 守
6	9月3日 (水)	14:00～ 15:40	講義	日本企業のアジア進出と「ビジネスと人権」	香川 孝三
7	9月18日 (木)	14:00～ 15:40	講義	地球環境問題と南北問題	松田 素二
8	9月30日 (火)	14:00～ 15:40	講義	人権について哲学は何を語れるのか	戸澤 幸作
9	10月17日 (金)	14:00～ 16:30	フィールドワーク	東九条の歴史と現在	前川 修
10	11月14日 (金)	14:00～ 15:40	講義	同和問題と隣保行政の現状と課題～地域共生の未来～	山本 崇記
11	11月26日 (水)	14:00～ 16:00	ワークショップ	「逃げたい」をめぐる物語～人権を侵害される人も、する人も～	渡辺 毅
12	12月11日 (木)	14:00～ 15:40	講義	社会の近代化と差別意識ー町村合併における部落差別の事例からー	井岡 康時
13	1月22日 (木)	14:00～ 15:40	講義	ヘイト・スピーチと表現の自由	桧垣 伸次
14	2月6日 (金)	14:00～ 15:30	講義	ハンセン病問題に係る全国的な意識調査の結果を読む	坂元 茂樹
		15:30～ 15:40	修了式		

会場	シンポジウム	ひと・まち交流館 京都 大会議室（京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1）
	講義・ワークショップ	世人研・多目的スペース（京都市下京区下之町57-1）
	フィールドワーク	京都市地域・多文化交流ネットワークセンター（京都市南区東九条東岩本町31）

講師プロフィール

山形 俊男 (やまがた としお)

国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ
特任上席研究員
東京大学名誉教授

浅岡 美恵 (あさおか みえ)

弁護士
特定非営利活動法人気候ネットワーク理事長
研究センター監事

坂元 茂樹 (さかもと しげき)

研究センター理事長・所長
神戸大学名誉教授
(公財)人権教育啓発推進センター理事長
主要業績:『侮ってほならない中国 今日本の海で何が起きているのか』(信山社新書、2020年)、『日本の海洋政策と海洋法』(信山社、2019年)ほか

川上 泰彦 (かわかみ やすひこ)

研究センター研究員
兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授
主要業績:『学校の未来をつくる「働き方改革」: 制度改正、メンタルヘルス対策、そして学校管理職の役割』(教育開発研究所、2024年)、『教育の行政・政治・経営』(放送大学教育振興会、2023年)ほか

杉木 志帆 (すぎき しほ)

研究センター研究員、香川大学教育学部講師
主要業績:『人権条約の領域外適用における国と人との間の権利義務関係の構築—国の支配に基づくのか—』国際法外交雑誌122巻2号174-213頁 (2023年5月)ほか

釜野 さおり (かまの さおり)

研究センター研究員
早稲田大学社会科学総合学術院教授・SOGI調査研究所所長
主要業績:『ダイバーシティ・インクルージョンと社会調査における(性別)ジェンダー統計とクィア方法論の連携—』『社会学評論』74:660-675(2024年)ほか

下坂 守 (しもさか まもる)

研究センター研究員
京都市歴史資料館長、京都国立博物館名誉館員
主要業績:『中世寺院社会と民衆』(思文閣出版、2014年)、『祇園祭千五十年記念 中近世祇園社の研究』(法蔵館、2021年)など

香川 孝三 (かがわ こうぞう)

研究センター研究員
神戸大学名誉教授
主要業績:『グローバル化の中のアジアに児童労働』(明石書店、2010年)、『アジア労働法入門』(晃洋書房、2022年)ほか

松田 素二 (まつだ もとじ)

総合地球環境学研究所特任教授
京都大学名誉教授
主要業績:『アフリカを学ぶ人のために』(世界思想社、2023年)、『新書アフリカ史』『日常人類学宣言』

戸澤 幸作 (とざわ こうさく)

京都市立芸術大学 芸術学部 講師
主要業績:『「信じる」という概念の彫琢——『食人の形而上学』から『シネマ』へ』(『哲学』三田哲学会、第151号、2023年)ほか

前川 修 (まえかわ おさむ)

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
希望の家地域福祉センター施設長

山本 崇記 (やまもと たかのり)

研究センター研究員、立教大学社会学部教授
主要業績:『インターネット時代のヘイトスピーチ問題の法的・社会的補足』(日本評論社、2023年)、『差別研究の現代的展開』(日本評論社、2022年)など

渡辺 毅 (わたなべ たけし)

穀雨企画室代表

井岡 康時 (いおか やすとき)

研究センタープロジェクトチーム2リーダー
元奈良大学文学部教授
主要業績:『奈良市東木辻町の貸座敷経営をめぐる諸課』(奈良大学史学会『奈良史学』40号、2023年)ほか

桧垣 伸次 (ひがき しんじ)

同志社大学法学部 教授
主要業績:『Hate Speech in Japan: The Possibility of a Non-Regulatory Approach』(Cambridge University Press 2021) (共編著)、『ヘイトクライムに立ち向かう』(日本評論社、2024年) (共編著)

講義の概要

第1回 シンポジウム 気候変動と人権

【共催：京都府・京都市】

国連総会で、2015年に「持続可能な発展のための2030アジェンダ」決議が採択されたのは、気候変動、生態系多様性の減少など生物圏の変化、成層圏オゾンの減少、海洋の酸性化など、地球システムを維持するための新たなパラダイムの緊急の必要性があるとの「惑星限界（Planetary Boundaries）」の認識に基づいています。

こうした事態に対応するために2013年から始まったのが科学者らのグローバル・ネットワークによる、より持続的な惑星のための革新的共同研究プログラム「未来の地球（Future Earth）」であり、地球の社会・経済・環境における持続可能性を考えるのが国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

海洋は、大気中の熱及び二酸化炭素の吸収能力が大きく、人間活動に起因する気候変動の緩和に役立ってきました。しかし近年、地球温暖化による海面上昇に加え、海洋生態系は酸性化、貧酸素化の進行により危機的状況に陥っています。温暖化は大気のみならず海洋にも生じています。

2024年4月、欧州人権裁判所は、「気候変動による深刻な悪影響から効果的に保護される権利」を個人の権利として認め、気候変動による影響は、欧州人権条約第8条（個人の生活及び家庭生活の尊重）の侵害であると認定しました。

2025年度の人権シンポジウムでは、こうした地球温暖化のメカニズムを知るとともに、気候変動の文脈で人権が重要なテーマとなってきている現状について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

第2回 学校組織・教育行政と子どもの人権

子どもの人権を保障する取り組みとして「福祉と教育の協働」や「プラットフォームとしての学校」が強調される中で、学校はその核となることが期待されている。一方でこれらの言葉は、協働やプラットフォームの取り組みが十分でないことも意味している。子どもの人権に関する政策に取り組むうえで、学校組織や教育行政にはどのような特徴（強みや課題）があるのかを整理し、組織としてよりよく政策を実施するためのヒントを考える。

第3回 家族のかたちを考える—性別変更と夫婦別姓をめぐる—

性同一性障害特例法は、生殖不能要件を満たさなければ性別変更ができないと定めています。この要件があるため、健康な身体にメスを入れ手術を受けるか、性別変更を断念するか二者択一を迫られ苦しんできた方がおられます。2023年、最高裁はこの要件が憲法違反であると判断しました。夫婦別姓を希望する方もまた、馴染みのある姓を変えるか、結婚を断念するか二者択一を迫られています。講義では、上記違憲決定を踏まえながら、多様な家族のかたちについて考えていきます。

第4回 全国SOGI調査の結果から読みとる性的マイノリティの状況

2023年に実施された「家族と性と多様性にかんする全国アンケート」（全国SOGI調査）は、性的マイノリティとそうでない人々の生活状況や意識を直接比較することが可能で、かつ、その結果が全国の縮図となる設計で行われた、日本では稀なタイプの調査である。講演では、仕事、経済状況、心身の健康、結婚や交際状況、居住地および引越経験、ジェンダーや家族についての意識などに関する結果を紹介しながら、「LGBTQ+」をテーマにした各種調査の意義と限界に触れる。

第5回 近世京都における「白人」商売の展開—祇園「芸子」「舞子」の起源を求めて—

現在「祇園」といえば多くの人びとがすぐに思い浮かべるのは、華やかな「芸子（芸者）」「舞子」の姿であろう。しかし、彼女たちが歴史の舞台に登場するのは意外にあたらしく、江戸時代も半ばになってからのことである。「芸子」「舞子」がどのような歴史的な経緯のもとに「祇園」で活躍するようになったかを絵画史料をも援用し考えていきたい。

第6回 日本企業のアジア進出と「ビジネスと人権」

日本は人口減少によって市場が縮小しつつあり、日本企業はアジア諸国に直接投資をして製造業や販売業に従事し、日本経済を支えている。そのために、現地で部品を調達し、従業員を雇用し、海外に製品を輸出している。その過程で「ビジネスと人権」に関わる事態が発生している。それを防止するための努力が日本企業に求められている。このことは製品や商品を購入する我々も消費者として理解し、行動していく必要がある。

第7回 地球環境問題と南北問題

地球温暖化、森林消失などの「地球環境問題」は、現在と未来の地球と人類の存在を脅かすほどの深刻な危機を迎えています。しかしこうした「認識」は、じつは世界中の人々にとって同じような「現実」として受け止められているわけではありません。地球環境問題という誰にとっても等しく大切であるはずの課題を考える際に、もう一つ重要な南北問題の視点について、アフリカを事例にして考えてみたいと思います。

第8回 人権について哲学は何を語れるのか

今日、人権とは何か？なぜ人権が必要なのか？と、ことさらに問うひとは少ないでしょう。でも、あたかも自明の前提であるかのように「人として」と私たちが口にするとき、いったいこの言葉は何を意味しているのでしょうか。哲学は、いつでも素朴な問いのなかにあります。この講義では、西洋近代のなかで人権という概念がどのように生み出され議論されてきたのかという思想史の観点为基础としつつ、現代哲学上のいくつかのトピックを通して、この概念の意義と射程、そして問題点について考えます。

第9回 フィールドワーク 東九条の歴史と変化

* 講師依頼により修正

東九条は、近代になると崇仁地区をはじめとする被差別部落や植民地化支配された朝鮮から、多くの人たちが居住するようになった。このため東九条は、被差別地域として、朝鮮人の集住地区として差別を受けてきた。京都市の東九条対策は民生的なものに終始したため、火災等で甚大な被害を被ってきた。また京都市同和行政終後の行政の在り方総点検委員会によって、同和地区でないにもかかわらず、東九条対策も廃止されてしまった。近年京都市は、東九条での文化芸術のまちづくりとして、「チーム・ラボ」等の誘致をおこなっているものの、これらの事業が東九条の歴史と現状に合致したものなのか、東九条の将来にどのような影響を及ぼすのかは定かではない。

第10回 同和問題と隣保行政の現状と課題 ～地域共生の未来～

同和問題を解決するために行われてきた同和行政の核である隣保（館）事業について、京都府をはじめ、全国的な実態と先進事例について俯瞰し、現代化する部落差別解消の方向性と期待されている地域福祉の実践の課題について考える。より強い差別規制と具体性を伴う交流・協働を両立させる最前線としての可能性を展望してみたい。

第11回 ワークショップ 「逃げたい」をめぐる物語 ～人権を侵害される人も、する人も～

人権が侵害されている人がその状況から「逃げたい」のなら、たぶん逃げても構わない。一方、他者の人権を侵害してしまった人が責任をとることから「逃げたい」場合はどうか。逃げてもいいのか…。人権侵害の被害者・加害者双方が抱く「逃げたい」は、いずれも私たちが日常のさまざまな局面で抱く感情と重なります。今回のワークショップでは、人権に関わる「逃げたい」をキーワードに、人の心理のありように分け入ってみたいと思います。

第12回 社会の近代化と差別意識 一町村合併における部落差別の事例から一

すべての人びとの人権は尊重されるべきである、というシェーマに異議を唱える人はいないのだが、差別・抑圧・忌避・排除といった振る舞いは今なお猖獗を極め、人びとを苦しめ傷つけ続けている。人権概念を獲得したはずの近代社会は、なぜこの問題を解決できないのか。その答えを見いだすことをめざして、19世紀後半から20世紀前半の日本社会を念頭に、地域社会の秩序の形成過程のなかで部落差別が果たした機能について、町村合併を事例に考えてみたい。

第13回 ヘイト・スピーチと表現の自由

近年、日本だけでなく、多くの国でヘイト・スピーチが大きな社会問題となっています。ヘイト・スピーチを規制すべきだという意見がありますが、憲法は表現の自由を保障しているため、ヘイト・スピーチを規制すべきではないという意見もあります。ヘイト・スピーチ対策の必要性和表現の自由とのバランスをどのようにとるかというのは、多くの国を悩ませている難問です。この問題について、日本がどのように取り組んできたのか、そのメリットと問題点について考えていきたいと思います。

第14回 ハンセン病問題に係る全国的な意識調査の結果を読む

厚生労働省は、未だ残るハンセン病に対する偏見差別について、偏見差別解消のための提言を行なう「ハンセン病に係る偏見差別の解消のための施策検討会」（以下、「施策検討会」）を開催し、2023（令和5）年3月に報告書を取りまとめた。

この報告書において、ハンセン病問題に関する全国的な国民の意識調査が一度も実施されていないことが指摘された。また、施策検討会は、2019（令和元）年ハンセン病家族訴訟判決における「ハンセン病に係る偏見差別はある程度解消された」との認識に問題意識を持ち、こうした認識の妥当性を検証する必要性を主張した。

そこで、厚生労働省はハンセン病問題についての市民の意識を把握し、今後の国としての取組を検討する際の参考とすることを目的として、ハンセン病問題に特化した全国的な国民意識調査を実施した（2023（令和5）年度は調査会社の登録モニターに対するWEB調査。2024（令和6）年度は紙媒体による無作為抽出調査）。この全国的意識調査検討会の委員長を務めた報告者が、その結果について検討する。

申込方法

定員

シンポジウム 200名

フィールドワーク 40名

(先着順)

講義 50名

ワークショップ 40名

受講料

1回 1,000円 全講座一括の場合 10,000円

※全講座を一括でお申込みいただくと受講料が割引となります。
※当センターの賛助会員は無料で受講できます。

シンポジウムは
無料です

受講
手続き

シンポジウム

○ **6月17日(火)までに**インターネット・FAX・電話で、お名前とご連絡先等をお伝えいただきお申込みください。インターネット申込みはこちらから➡



講義・ワークショップ・フィールドワーク

- 受講日前日16時までに「受講申込書」にて、郵送、FAXでお申込みください。
- 右のQRコードからインターネット申込みもできます。
- 受講料は、当日、会場でお支払いください。
- 受講料の銀行振込みを希望される場合は、センター事務局までお問合せください。



※当日の申込みはできませんので、注意してください※

申込先

公益財団法人 世界人権問題研究センター 事務局

〒600-8206 京都市下京区下之町57番地1 京都市立芸術大学内A棟7階
TEL (075) 585-5897 / FAX (075) 585-5898

会場案内

シンポジウム

受付 午後1時～

ひと・まち交流館 京都

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)

市バス4, 7, 205号系統「河原町正面」下車
京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分



2025年度 人権大学講座 受講申込書

キリトリせん

お名前 (ふりがな)			ご所属	
ご連絡先	〒 ー			
	TEL :	()	FAX :	()
受講料	<input type="checkbox"/> 全講座 ¥10,000		<input type="checkbox"/> ¥1,000 × () 回	
支払方法	<input type="checkbox"/> 当日支払い (毎回)		<input type="checkbox"/> 当日支払い (一括)	<input type="checkbox"/> 銀行振込み
講座日程 受講希望日に <input checked="" type="checkbox"/>	受講	開催日	講座名	
		6月24日(火)	人権問題シンポジウム 気候変動と人権	
		7月10日(木)	学校組織・教育行政と子どもの人権	
		7月29日(火)	家族のかたちを考える一性別変更と夫婦別姓をめぐる	
		8月8日(金)	全国SOGI調査の結果から読みとる性的マイノリティの状況	
		8月20日(水)	近世京都における「白人」商売の展開 一祇園「芸子」「舞子」の起源を求めて一	
		9月3日(水)	日本企業のアジア進出と「ビジネスと人権」	
		9月18日(木)	地球環境問題と南北問題	
		9月30日(火)	人権について哲学は何を語れるのか	
		10月17日(金)	フィールドワーク 東九条の歴史と変化	
		11月14日(金)	同和問題と隣保行政の現状と課題～地域共生の未来～	
		11月26日(水)	ワークショップ 「逃げたい」をめぐる物語～人権を侵害される人も、する人も～	
		12月11日(木)	社会の近代化と差別意識一町村合併における部落差別の事例から一	
	1月22日(木)	ヘイト・スピーチと表現の自由		
	2月6日(金)	ハンセン病問題に係る全国的な意識調査の結果を読む		

講座・ワークショップ

受付:午後1時30分～

世界人権問題研究センター

- 京都市下京区下之町57-1 京都市立芸術大学内 A棟7階
- ・ JR、地下鉄、近鉄電車「京都駅」から徒歩約6分
 - ・ 市バス「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ
 - ・ 京阪電車「七条駅」から徒歩約8分



フィールドワーク

受付:午後1時30分～

京都市地域・多文化交流ネットワークセンター

- 京都市南区東九条東岩本町31
- ・ JR 京都駅・市営地下鉄京都駅八条口から徒歩15分
 - ・ 市営地下鉄九条駅から徒歩15分

